

第3回 2010年8月出発 参加者

●白岩 隆行さん、ホスト：韓国標準科学研究院

1. 応募したきっかけ

海外の研究者と交流を持ちたかったことと、新しい環境・新しいテーマで研究をしたかったのが応募の理由です。これまでに学会などで海外の学生と接する機会はありましたが、長く密につきあうことはありませんでした。また、学部から修士課程まで同じ研究室で一貫した研究テーマに取り組んでいたので、視野を広げるためにも、新しい実験や研究をしてみたいと思いました。加えて、韓国の文化や料理に興味があったため、応募することに決めました。

2. 事前準備

韓国語の本や、電子辞書を用意して韓国の学生とコミュニケーションをとれるように準備しました。

研究内容については、ホスト先の先生の論文などを読んで予習しました。研究所の実験設備の都合などは事前に詳しく知ることができなかったため、具体的な研究テーマは渡韓後に受け入れ先の先生と相談して決めました。

3. 現地研修

最初の3日間はソウルで文化研修を行いました。韓国民族村や体験学習では韓国文化を大いに楽しみました。また語学研修は会話中心のもので、この後の研究活動のためにとても有意義なものでした。

ホスト研究室では一ヶ月半にわたってサーモグラフィを用いた構造物ヘルスマニタリングに関する研究を行いました。平日は朝から夕方まで研究活動を行い、新しい実験手法や理論について学ぶことができました。また研究室内では定期的に研究成果をプレゼンテーションする機会がありました。

研究活動中のコミュニケーションは基本的に英語で行いましたが、片言の韓国語・日本語を使う場面もありました。夜は研究員の方と食事に行く機会が多くあり、その中でお互いの文化の違いや最近の流行などについて話すことができました。

4. この研修を通じて得たもの

韓国の研究者、学生、友人と深いつながりを持つことができました。研究者としてのつながりに限らず、共通の趣味を持つ友人も作ることができました。これからもこの関係を大切にしたいと思っています。また英語や韓国語で会話する友人ができたことで、もっと語学の勉強をしようと思うようになりました。研究面では、新しい実験手法について学んだけではなく、研究の進め方や実験の取り組み方において日本と同じところ、違うところを発見することができました。

5. 参加する人へのアドバイス

行く前はいろいろな不安がありましたが、研究室の人がみんな親切に助けてくれるので、生活する上で困ることはほとんどませんでした。また韓国ではお酒を飲む機会が多く、観光などでは体験できない様々なことを経験することができました。

学生のうちにこのようなプログラムに参加できて良かったと思います。参加される方は、余裕があるときに韓国語を勉強しておくといいと思います。少しでも韓国語を使えると非常によろこんでもらえますし、大学や研究院の外に行くときもより楽しめると思います。海外での生活に不安もあると思いますが、ぜひ前向きに韓国での生活を楽しんできてください。

